

建築デザインを介した生活空間支援の実践的研究

研究代表者 小林 恵吾
(創造理工学部 建築学科 准教授)

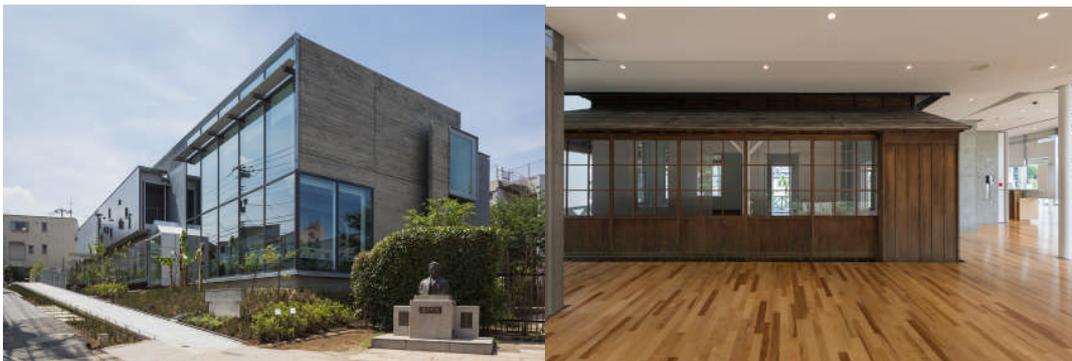
1. 研究課題

時代の変革期において、建築の概念も変化してきており、その自覚のもとに建築デザインを介して、社会における多様で、新しいニーズにどのように対応していくかが問われている。建築的遺構の修復・再生とそれに伴う街の活性化支援、地方歴史的都市の街づくり支援、また都市の文化的施設の多様な展開における記念館等建築の今日的在り様、さらに幼児・初等教育環境の空間的在り方などをキーワードとして、当該研究は建築デザインが社会におけるニーズ動向に対応して、多様で、新しい生活空間要求に支援という視点で、それらの課題をどのように実現できるかを、問うものである。

2. 主な研究成果

2.1 漱石山房記念館

日本で唯一の夏目漱石に関する記念館として2017年9月24日に開館した。建築デザインの指導、それに伴う設計監理の指導、また漱石が関わった庭の造園デザインの指導、展示デザインへの協力等を充当した。主研究として開館まで、新宿区主催の「漱石山房記念館設計プロポーザルコンペティション」の一位作品で、2016年4月に着工し、2017年に建築工事竣工、以降展示工事が9月まで継続し、当該月末に開館を迎える。本計画の設計監理指導を年度初めから今日まで行ってきた。2017年9月24日の開館まで、展示に関するこれからの作業も見守りながら作業を進めているところです。



2.2 人間生活遺構研究

九州、佐賀県鹿島市を対象に街づくり提案を行うとともに、江戸時代から続く酒蔵のある歴史都市である本市のさまざまな研究を行ってきた。7年目に入った今年度は、昨年につき“観光”をキーワードとして、観光の見方を新しい角度で捉えること、今年度は外国人から見た観光の在り方を問うことである。これまでの歴史的な建築遺構、自然景観に依拠した象徴的認識に対して、鹿島の市民の日常生活圏自身が観光対象になりうることの見方を示すことができた、と考える。

2.3, 学会梗概集

山村健、入江正之、美学者パウ・ミラ・イ・フタナルスの美学について (1)、アントニ・ガウディ・イ・コルネット研究、日本建築学会大会郊外集建築史・意匠、福岡、2017年8月、9401.

3、共同研究者

入江正之 (理工学研究所名誉研究員、早稲田大学名誉教授)
小松幸夫 (創造理工学部・建築学科・教授)
長谷見雄二 (創造理工学部・建築学科・教授)
田辺新一 (創造理工学部・建築学科・教授)
輿石直幸 (創造理工学部・建築学科・教授)
山村健 (創造理工学部・建築学科・専任講師)
吉川由 (創造理工学部・建築学科・専任助手)
和久田幸祐 (理工学研究所・招聘研究員)
早田大高 (理工学研究所・招聘研究員)

4、研究業績

4-1 建築作品

- 入江正之、入江京、和久田幸祐、早田大高、フォーカス[建築] 漱石山房記念館 (東京都新宿区)、日経アーキテクチャー、2017年10月、No.1106,p.p.28~35。

- 入江正之、入江京、和久田幸祐、早田大高、新宿区立 漱石山房記念館〈内〉と〈外〉の間 XXVI、新建築、2017年12月号、p.p. 第92巻15号、p.p.120~129。

- 入江正之、入江京、和久田幸祐、早田大高、新宿区立 漱石山房記念館〈内〉と〈外〉の間 XXVI、建築技術、2018年3月号、No.818,p.p.16~41。

-入江正之、入江京、和久田幸祐、早田大高、新宿区立 漱石山房記念館、ディテール 季刊 - 春季号、No.216,p.p.81~92。

4-2 フィールドワーク

- 入江正之、入江京、和久田幸祐、人見将敏、早田大高、三角俊喜、刃物ミュージアム回廊 基本設計・実施設計等業務委託に係る公募型プロポーザル、2017年8月。

-入江正之、入江京、人見将敏、早田大高、三角俊喜、六甲山最高峰トイレ新築工事設計業務 公募型簡易プロポーザルコンペティション、2017年12月。

-入江正之、入江京、人見将敏、早田大高、(仮称)坂本こども園建築設計委託業務公募型プロポーザルコンペティション、2018年2月。

4-3 講演

; 入江正之

-早稲田大学エクステンションセンター中野校秋季講座

第1回、ガウディが生きたカタルーニャの近代。2017年10月13日。

第2回、ガウディという建築家の登場、カザ・バツリョ。2017年10月20日。

第3回、カザ・ミラはバルセロナという都市のディテールである。2017年10月27日。

第4回、グエイ公園、快樂の機械。2017年11月10日。

第5回、コロニア・グエイ教会の制作態度。2017年11月17日。

第6回、サグラダ・ファミリア贖罪聖堂と、今日的な作品の意味。2017年11月24日。

；入江正之

-第95期一橋フォーラム21「魅惑の世紀末」、ガウディ、天空への誘い、2017年11月21日、如水会館、一般社団法人如水会主催。

；入江正之

-前橋工科大学専門講座、まちに浸透する幼稚園、2017年12月14日、前橋工科大学1号館1階、多目的ホール。

；入江正之

-「漱石山房記念館」の建築について（漱石山房記念館と建築巡り）、日本建築家協会関東甲信越支部新宿地域会主催、新宿区榎町地域センター多目的ホール、2017年3月24日。

4-4 記事

- 入江正之、設計メモ・重厚、気品ある存在感を表出、文豪、漱石の息吹を未来に伝承、建設通信新聞、2017年（平成29年）9月25日（月曜日）第18354号、p.7.

- 入江正之、設計メモ、新宿区立 漱石山房記念館、建設経済新聞、平成29年10月4日、第3140号、p.3.

-入江正之、夏目漱石の世界を建築全体に表現する、新建築、2017年12月号、第92巻15号、p.125。

-入江正之、漱石山房記念館の設計の方法、建築技術、2018年3月号、No.818,p.p.30~31。

-入江正之、漱石の世界を建築全体に統べる、ディテール、p.83

5、研究活動の課題と展望

建築デザインは社会動向（政治、経済、文化、生活等全般）に直催に関わる事象であるがゆえに、常態が本質的に変容を旨としている。現在という状況は、ある傾向を不変として継続、維持していこうとしがちであり、建築デザインの本質的様態を時間の急速な展開の内に見逃してしまいかねない。社会の動向にあるニーズを改めてとらまえ、建築デザインの概念を生活支援に向けて、常に更新していくことが望まれる。生き生きとした取り組む姿勢が必要とされよう。その意味で、この1年間は夏目漱石の存在を建築に表現するという難しい課題を通して、社会に向けて作品を訪れた方に向けてメッセージを送ることができたように思う。